

隅田川沿いに立地する飲食店舗の空間的特徴に関する研究

A study on the spatial features of eating and drinking establishments located along the Sumida River

○宗原咲来¹, 畔柳昭雄², 菅原遼²

*Saki Souhara¹, Akio Kuroyanagi², Ryo Sugahara²

Abstract: In this research, we investigated the spatial composition and external composition of eating and drinking establishments and their relation to the waterside space, covering the Sumidagawa riverbank in the Kachidoki bridge from Sakura bridge. Therefore, we classified the plan configuration and the sectional configuration and analyzed how the store incorporates the waterside space. As a result, it was confirmed that the relationship between the store and the river was greatly affected by the embankment.

1. はじめに

近年、わが国では河川利用に対する期待の高まりに伴い、全国各地の河川において賑わい創出に向けた取り組みが実施されており、広島市京橋川の「水辺のオープンカフェ (2004)」や、大阪市土佐堀川の「北浜テラス (2009)」等のように河川空間を活かした多様な事業展開がなされてきている。東京都においても、東京都建設局による「隅田川ルネサンス (2011)」に基づき隅田川沿いの親水テラスの整備やオープンカフェの設置等、河川空間の市民開放に向けた取り組みが実施されてきている。

そこで本稿では、隅田川沿いに立地する飲食店舗を対象に、河川の資質を考慮した飲食店舗の空間構成のあり方を把握することを目的とする。

2. 調査概要

調査概要を Figure1 に示す。本稿では調査地を桜橋～勝どき橋間における隅田川河岸地と定め、現地踏査により河岸地に立地する飲食店舗の抽出を行った。次いで空間構成の分析にあたり、各店舗の断面および平面構成を把握した。また、各店舗と河川との距離が 0～20m のものを隣接 (●と示す)、20～40m のものを非隣接 (○と示す) と分類し、Table1 に示す。

3. 調査結果

3-1. 隅田川沿いに立地する飲食店舗の空間構成

調査の結果、隅田川沿いには 24 件の飲食店舗が確認できた、各店舗の断面および平面構成を Table1 に示す。断面構成に着目すると〈A.公園設置型〉2 件、〈B.川床型〉3 件、〈C.建物内部型〉13 件、〈D.高規格堤防上型〉4 件、〈E.遠方立地型〉2 件に区分できた。〈A〉および〈B〉は国土交通省による「河川敷地占用許可準則の特例措置」に基づき実現した事例で、〈A〉は、「隅田川



Figure1. Overview

Table1. Plan configuration and sectional structure

断面構成	平面構成		
	<a. 室内のみ型>	<b. 室内+内テラス型>	<c. 室内+外テラス型>
規制緩和あり <A.公園設置型> <B.川床型>	●TULLY'S COFFEE (1F,13.5m) ●Cafe WE (1F,13.5m)	●B's 花太 (1F,14m) ●RYVALD (2F,7m) ●アペノイズム (3F,14m)	●TULLY'S COFFEE (1F,13.5m) ●Cafe WE (1F,13.5m)
規制緩和なし <C.建物内部型> <D.高規格堤防上型> <E.遠方立地型>	●建形形 船川 (1-4F,18.5m) ●ヒストロイ (3F,18m) ●Blue River Room (1F,18m) ●船形茶房 (1-2F,13m) ●船型キッチン Plaza (1F,14.5m) ●船形BAYON (4F,15m) ●船型茶室 (1-2F,14m) ●船型茶室 (1-4F,30m)	●カフェムルソー (2-3F,13m) ●船型リゾートハウス (2-4F,17m) ●船型サートビュロー (1-2F,15m) ●White Post Cafe (2F,3m)	●シエロイリオ (1-3F,15m) Cascks CONNECTION TOKYO (1-2F, 30m)
	○上海インテグ (1F,40m) ○手打ちそば 玄駒庵 (1F,37m) ○さくら亭 (1F,37m)		
	○Cafe 星野村 (1F,20m) ○江戸橋 (1F,36m)		

ルネサンス」の一環として公園内の河川敷地にオープンカフェを設置しており、〈B〉は、二階部分に縁台型のテラス (以下、川床と示す) を設置していた。そのため、〈A〉および〈B〉の平面構成は川面にテラスを設けた〈c:室内+外テラス型〉に限られ、それにより河川空間との距離が 7～15m となり、比較的河川への近接性が確保された空間がみられた。〈C〉は、利用が店舗内に限られおり、一階部分に位置した店舗は直立

1 : 日大理工・学部・海建 2 : 日大理工・教員・海建

堤防により水辺の景色が遮断されている事例もみられたが、二階以上に飲食スペースを設けることで河川への眺望を確保していた。〈D〉は、堤防上に立地しているため、河川との距離が30~40mと離れているものの、高規格堤防上に立地することで河川への眺望が確保されていた。また、堤防は緩傾斜型となっているため水辺へのアクセス性も考慮されていた。〈E〉は、道路および直立堤防を介して河川と隣接しており、河川への眺望性およびアクセス性は低く、平面構成においても利用は店舗内に限定されているため、水辺空間の魅力を享受しにくい空間となっていた。断面構成および平面構成の組合せとして〈C-a〉は最多の8件確認でき、堤防上や二階以上に店舗を構えることで規制緩和による河川空間利用に依存せず、河川の眺望を取り入れる工夫がなされていた。また、〈b〉は4件確認でき、規制緩和に依らず、店舗内に半屋外のテラスを設けることで、河川との眺望性および近接性を考慮した空間を創出していた。

このように、断面および平面構成は規制緩和適用の有無によって、異なるものの、双方とも河川を意識した空間を生み出していた。

3-2. 店舗形態と水辺空間との係わり

店舗形態と水辺空間との係わりを Table2 に示す。現地調査の24件中6件の店舗について内部の空間構成を把握した。水との接し方については、遮断型は店舗内（座席）から河川を視認できないもの、眺望型は店舗内から見て河川を視認できるもの、接近型はテラスを設けたもの、アクセス型は店舗が堤防によって遮断されず、河川への動線が確保されているものを指す。

TULLY'S COFFEE と Café WE は「隅田川ルネサンス」の取り組みとして設置された店舗であり、店舗前の直立堤防により、客席からは水辺を望むことは困難となっていた。そのため、施策意向が十分に反映されていないと考えられるが、対岸のスカイツリーへの眺望は確保されており、河川特有の視線の抜けを考慮していることが分かる。ボン花火は「かわてらす」の取り組みの一環として設置されている店舗であり、一階部分は直立堤防があるため河川を視認することは出来ず、遮断型となっているが、二階部分には川床が設置されているため、眺望性は確保されている。また、川床は河川敷地上に、張り出して設置されているため、眺望性に加え近接性を有した空間となっている。

カフェムルソーは民間事業者により運営されており、店舗を二階以上に設けることで河川への眺望性を高め

Table2. Relationship between shop and waterfront space

店舗名	管理・運営主体	堤防形態	川が見える座席	水との接し方
[A] TULLY'S COFFEE	民間事業者	直立堤防	店内：0/21 テラス：0/22	遮断
[A] Cafe WE	民間事業者	直立堤防	店内：0/15 テラス：0/19	遮断
[B] ボン花火	民間事業者	直立堤防	店内：10/66 テラス：20/20	1F 遮断 2F 眺望 + 接近
[C] カフェムルソー	民間事業者	直立堤防	店内：44/56 テラス：10/14	眺望
[C] シエロイリオ	民間事業者	直立堤防	店内：18/80 テラス：0/10	1F 遮断 2F 眺望
[D] asics CONNECTION TOKYO	民間事業者	高規格堤防	店内：10/18 テラス：10/10	眺望 + アクセス

ている。また、店舗内にテラスを設けることで河川間への眺望を確保している。シエロイリオは民間事業者により運営されており、直立堤防があるため、一階部分にテラスを設けているものの、河川への眺望は遮断されている。しかし、中二階席を設けることで、河川の眺望を確保している。Asics CONNECTION TOKYO は民間事業者により運営されており、高規格堤防上に立地しているため、河川への眺望は確保されている。また、店舗から川への階段が設置され、アクセス性も考慮されている。

4. おわりに

本研究では、隅田川河岸地の店舗の空間構成を調査し、店舗と水辺空間との係わりについて分析した。24件の店舗について調査を行い、断面構成は5種類、平面構成は3種類確認できた。規制緩和に依らない店舗を確認でき、河川を意識した空間構成がみられた。内部構成を比較すると、規制緩和に依る店舗では、テラスを設置するなど開放的な空間づくりがされているものの、規制緩和に依らない店舗では、二階以上に店舗を設けることで、眺望性や近接性が確保されていた。

規制緩和により造りに多様性は生まれるものの、規制緩和対象地域外においても水辺を意識した空間づくりは行われていたため、規制緩和の有用性はなかった。今後は規制緩和に依らず、河川への眺望性をもつ構成を検討する必要がある。

参考文献

- [1] 篠原修, 北原理雄, 加藤源:「公共空間の活用と賑わいまちづくり オープンカフェ/朝市/屋台/イベント」, 株式会社学芸出版社, 2007.5.30
- [2] 菅原遼:「水辺の社会実験から見た水辺の市民開放施策に関する研究」, 2015.9